

2023年度
合同年次大会
報告書(案)

日時 2023年7月1日(土) 13時30分
場所 エスポワールいわて
盛岡市中央通1-1-38
TEL 019-623-6251

公益社団法人日本技術士会東北本部
岩手県支部

いわて技術フォーラム

次 第

1. 開 会
2. 支部長挨拶
3. 会議成立報告
4. 議長選出
5. 議事及び報告
6. 閉 会

【新型コロナウイルス感染症対策】

本年5月に感染症法上の分類が2類から5類に変更されましたが、引き続き各自で感染予防に努めましょう。

2023年度 合同年次大会 報告及び議案事項

報告及び議案事項 1

2022年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について

報告及び議案事項 2

岩手県支部長及びいわて技術フォーラム代表幹事の件

報告及び議案事項 3

2023年度事業計画及び収支予算について

以上の議案を提出します。

2023年7月1日

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部

支部長 小野寺 徳雄

いわて技術フォーラム

代表幹事 佐藤 悟

2022 年度岩手県支部事業報告書

〔2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日〕

■ 2022 年度の活動概要

2022 年度は、2020、2021 年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を受けた 1 年でしたが、感染拡大防止策を講じながら会員の皆様の工夫により活発な支部活動を行うことができました。

活動の概要を、以下に報告します。

1. 年次大会

7 月 2 日（土）に支部会員 35 名の本人出席により開催し、議案事項は事務局提案のとおり承認されました。大会後には恒例の記念講演を開催しました。

2. 役員会

感染防止対策を講じたうえで、コロナ禍以前と同様に隔月で計 6 回開催しました。

3. 講演会

コロナ禍以前と同様に、年次大会時のほか、秋季、新春の計 3 回開催しました。なお、秋季と新春講演会では 2021 年度と同様に会員限定ですがオンライン併用開催としたほか、事前予約制ではあるものの会員以外の皆さんの聴講も可能としました。

4. 研究会活動

支部に 11 ある研究会のうち 10 の研究会が現場研修やオンラインでの勉強会などを開催しました。各研究会がそれぞれに工夫しながら、コロナ禍前を上回るほどの積極的な活動が展開されました。

5. いわてまるごと科学・情報館

毎年恒例となっていた岩手県主催の「いわてまるごと科学・情報館」が 3 年ぶりに開催され、支部活動のパネル展示および協賛企業による展示・体験コーナーへの出展を行いました。

会員の皆様によりますこれらの活動によって、社会・地域へのより一層の貢献など支部の活動理念を実践できた 1 年でした。

2022 年度いわて技術フォーラム事業報告書

〔2022 年 4 月 1 日～2023 年 3 月 31 日〕

■ 2022 年度の活動概要

2013 年 7 月の「いわて技術フォーラム」発足から 10 年目となりました令和 4 年は、各研究会の活動、講演会の開催、広報・普及活動など、技術士会岩手県支部との連携のもと、コロナ感染防止対策を講じた対面及び Web 配信での研修会などハイブリッド方式を展開し、会員の皆様にご参加いただける新しい環境を整備しました。

その結果、従来に比べ多くの会員の皆様のご参加が可能となり、充実した活動ができたものと思っております。これもひとえに、会員皆様のご理解・ご協力の賜物と感謝しております。

2016 年度からの新たな取り組みであった「いわて技術士交流会」を 1 回開催し(第 1～3 回目はコロナ感染状況を考慮し中止)、技術の研鑽と会員相互のつながりの強化が図られました。

また、岩手県主催の「いわてまるごと科学・情報館 2022」は、新型コロナウイルス感染症対策を万全に講じた上で、対面での開催となりました。

令和 4 年 12 月 16 日(金)～17 日(土)、盛岡会場で開催されました「いわてまるごと科学・情報館」には、技術士会岩手県支部と連携し、会員の企業様のご協力のもと、「3次元の世界から防災について考えよう」と題しましたパネル展示を実施し、来場者は 400 名で、多数のご参加をいただきました。令和 5 年度も同様に、実行委員会として積極的に参加し、県民の皆様に、技術を通して技術士会の知名度向上を図っていききたいと思います。

このように、長期化したコロナ禍の下、限られた活動を余儀なくされましたが、Web 配信による環境を整備した研修会を行ったことは、以前にも増してより多くの会員の皆様からご参加いただき、一定の成果が上げられたものと考えており、会員各位のご理解とご協力の賜物と深く感謝を申し上げます。

・ 一般事業

1. 委員会・研究会活動

1 - 1 委員会活動

- (1) 役員会の開催（役員会） 詳細はP.11「2.役員会」にて記述
岩手県支部の規則に則り年間 6 回の役員会を計画し、感染防止対策を行ったうえで、支部活動に関する協議を開催した。
- (2) 年次大会の開催（総務委員会）
岩手県支部及びいわて技術フォーラムの 2021 年度活動、決算報告、2022 年度の活動、予算計画の報告を行った。（2022 年 7 月 2 日）
- (3) 技術士名簿の発行（総務委員会）
岩手県支部及びいわて技術フォーラムの技術士名簿を作成し、会員に配布した。
（2022 年 12 月）……今回から冊子印刷を取り止め、会員への Excel データでの提供とした。
- (4) 広報活動（広報委員会）
東北本部「ガイアパラダイム」への寄稿を行った。
第 75 号（2022.07）：
 - 寄稿 「学生への実習指導を通じて未来の技術者を育てるための取り組みと気づき」（武田 洋一 氏）
 - 岩手県支部 2021 年度後期活動報告（利部 哲 氏）第 76 号（2023.01）：
 - 各県支部長年頭の挨拶 「東日本大震災津波の伝承・発信」（小野寺 徳雄 氏）
 - 岩手県支部 2022 年度前期活動報告（利部 哲 氏）





ホームページ、Eメールを活用した会員への情報提供、一般社会へのPRを行った。

(5) 講演会開催（企画委員会）→ 詳細は別紙「事業報告」にて記述

新型コロナウイルス感染症対策として、人数制限を設けて開催した。

- 2022.7.2 於：エスポワールいわて 参加人数：35名（会員限定）
～シリーズ岩手を知る（第24回）～
「東日本大震災からの漁港等の復旧・復興及び津波に対する漁業地域のレジリエンス向上方策に関する実証的研究とその実践」
- 2022.10.8 於：エスポワールいわて 参加人数：39名（内WEB配信視聴10名）
～シリーズ岩手を知る（第25回）～
「微動アレイ探査による地域の地震ハザードの評価」
- 2023.1.28 於：エスポワールいわて 参加人数：48名（内WEB配信視聴8名）
～シリーズ岩手を知る（第26回）～
「地域と共に創る減災を目指して」



- (6) いわてまるごと科学・情報館への出展の参加（企画委員会）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

- 2022.12.16～17 於：ビッグルーフ滝沢 全体 400 名
 - ・協賛団体である㈱タックエンジニアリング様による CVESmap Viewer や 3D マップと VR による自然体験、UAV 操作シミュレーション等のブース展示
 - ・技術士会岩手県支部 パネル展示・ポスター展示



ブース出展の様子



パネル展示の様子



- (7) 技術部門別の研究活動全般の統括や技術士倫理に関する活動（技術委員会）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述

- 現場セミナーの開催など

- (8) いわて技術士交流会（いわて技術フォーラム）→ 詳細は別紙「活動報告」にて記述
例年 4 回開催されるが、新型コロナウイルス感染症の状況を考慮し 1 回の開催となった。

業務・研究発表（2 名）

- 第 1 回 2022.12.21 於：櫻山神社参集殿

1 - 2 研究会活動

各研究会等において次の事業が行われた。

研究会名	事業名	実施月日	実施場所	事業内容, テーマ等	参加人数
道 路	現場見学会	2022.9.27	奥州市水沢	水沢東バイパス工事現場見学	13 名
河 川	現地研修会	2022.10.7	西和賀町 北上市	(1)国道 107 号大石地区地滑り対策災害復旧現場 (2)入畑ダム堆砂対策現場	30 名
鉄 道	現地研修会	2022.11.17	岩手飯岡駅	(1)現場事務所内での事業概要及び工事内容確認 (2)工事現場内からの工事实施状況確認	4 名
都 市	意見交換会	2022.8.20	Web による	会員の「まちづくり」に関する活動状況の報告と次回の内容のテーマ決め	6 名
	講演会	2022.11.26	Web による	(株)盛岡地域交流センター 菅原隆彦氏による「盛岡バスセンター整備計画」に関する講演会	17 名
	意見交換会	2023.2.25	Web による	菅原氏の講演内容を受けた意見交換会と次年度のテーマ決め	6 名
施 工	現地見学会	2023.2.17	盛岡市	杜の大橋上部工現場見学会	19 名
農 業	現地研究会	2022.10.27	盛岡市 八幡平市 紫波町	会員の技術研鑽に資する活動として、「農道橋、ほ場整備とスマート農業、揚水機整備」をテーマに現地研修会を開催。	26 名
森林・水産	現地研修会	2022.10.14	青森県西目屋村(白神山地ブナ林)	(1)車中での話題提供 (2)世界遺産の径(みち)ブナ林視察	15 名
応用理学	野外見学会	2022.10.28	北上市和賀町 岩崎新田、 山口、横川 目、岩沢地内	テーマ：北上市西部における新第三紀の地質見学と水沢鉱山跡を訪ねて 講師：大石雅之氏 (理学博士/元岩手県立博物館学芸部長/岩手県立博物館研究協力員/東北大学総合学術博物館協力研究員/三陸「机」学術アドバイザー)	24 名 (講師 1 名、現地案内者 2 名を含む)
鋼構造 コンクリート	オンライン研修	2023.1.28	オンライン研修	(1)岩手県の橋梁の現状と課題 講師：遊田勝氏 (2)岩手県の道路メンテナンスへの取組等について 講師：菅原常彦氏	5 名
建設 ICT 生産システム	BIM/CIM 勉強会	2022.11.30	盛岡広域振興局 8F 大会議室	(1)建設分野の変革に向けて (2) BIM/CIM 勉強会 建設分野の課題と建設 DX BIM/CIM の概要 BIM/CIM 事例紹介	16 名

2. 広報及び普及啓発事業

広く社会に技術士制度の普及啓発を図るとともに、技術士活用の促進、CPD 実施の促進及び支援のための情報提供など、技術士活動の活性化を図るための、以下の事業を行った。

(1) 広報

ホームページ、Eメールを活用した会員への情報提供、一般社会への PR
会員名簿の作成、配布
東北支部「ガイアパラダイム」、公益社団法人日本技術士会「技術士」への寄稿

(2) 普及啓発

会員及び協賛企業及び団体の拡大に向けた活動

3. 技術士の資質の維持・向上のためのCPD活動

技術士の資質の維持・向上を目的として、技術講演会ならびに研究会活動など、CPD 活動を「1. 委員会・研究会活動」に示すとおり開催した。

4. 社会貢献活動

(1) 講演会の開催

下記の講演会において市民へ参加を呼びかけ、新型コロナウイルス感染症対策として人数制限を設け、先着順の事前メール申込制とした。

2022.07.02 「東日本大震災からの漁港等の復旧・復興及び津波に対する漁業地域のレジリエンス向上方策に関する実証的研究とその実践」

2022.10.08 「微動アレイ探査による地域の地震ハザードの評価」

2023.01.28 「地域と共に創る減災を目指して」

(2) いわてまるごと科学・情報館への出展（於：ビッグルーフ滝沢）

CVESmap Viewer 体験

3D マップと VR による自然体験

UAV 操縦シミュレーション他

協賛団体である(株)タックエンジニアリング様によるブース出展

その他、岩手県支部としてのパネル展示（ポスター展示）も行った。（支部から 4 名参加）

5. 東北本部活動への参加

東北本部との連携によって、本会の円滑な運営を図るために、以下の活動に参加した。

(1) 役員会への参加(Web&対面)

(2) 東北本部政策事業委員会への参加(Web&対面)

(3) 東北本部機関誌「ガイアパラダイム」への寄稿

II. 会議の記録

1. 合同年次大会

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部・いわて技術フォーラム
2022 年度合同年次大会

概 要 : 報告及び議案事項 1 2021 年度事業報告及び収支決算並びに監査報告について
報告及び議案事項 2 2022 年度事業計画及び収支予算について

議案事項 1、2 とも承認される。

その他意見等；

年会費 2 万円のうち本部から還付される額についての質問
地域組織活動費補助など還付金の増額を要望するべきとの意見

2. 役員会

開催日	役員会	主要議題
2022.05.31	第1回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度第1回東北本部役員会報告 ・ 合同年次大会の承認について ・ 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2022.07.27	第2回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度第2回東北本部役員会報告 ・ 2022年度東北本部第50回記念年次大会 ・ 秋季講演会について ・ いわてまるごと科学館について ・ 名簿作成について ・ 各研究会の活動報告、ならびに活動予定
2022.09.28	第3回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度第3回東北本部総務委員会報告 ・ 秋季講演会及び新春講演会について ・ 岩手県技術士名簿作成について ・ いわてまるごと科学・情報館について ・ 機材の購入およびリースについて ・ 各研究会の活動報告、活動予定について
2022.11.29	第4回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2022年度第3回東北本部役員会報告 ・ 岩手県技術士名簿の作成について ・ いわてまるごと科学・情報館について ・ 新春講演会について ・ 研究会の活動報告、ならびに活動予定
2023.01.28	第5回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年新春講演会 ・ 2022年度第4回東北本部役員会報告等 ・ 技術士全国大会及び「地域産学官と技術士合同セミナー」の開催実績及び今後の予定 ・ 機関誌「ガイアパラダイム」 ・ 役員改選について ・ 2023年度事業スケジュールについて ・ 各研究会の活動報告、活動予定について
2023.03.22	第6回役員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2023年度支部役員改選について ・ 事務局「事務手数料」の改定について ・ 2023年度合同年次大会に向けた準備について ・ 各研究会の活動報告、活動予定について

なお、役員会の議事録については、随時、当会ホームページに掲載しております。

III. 会員の動向

1. 岩手県支部

2023年4月時点の会員の動向及び構成は以下の通りである。

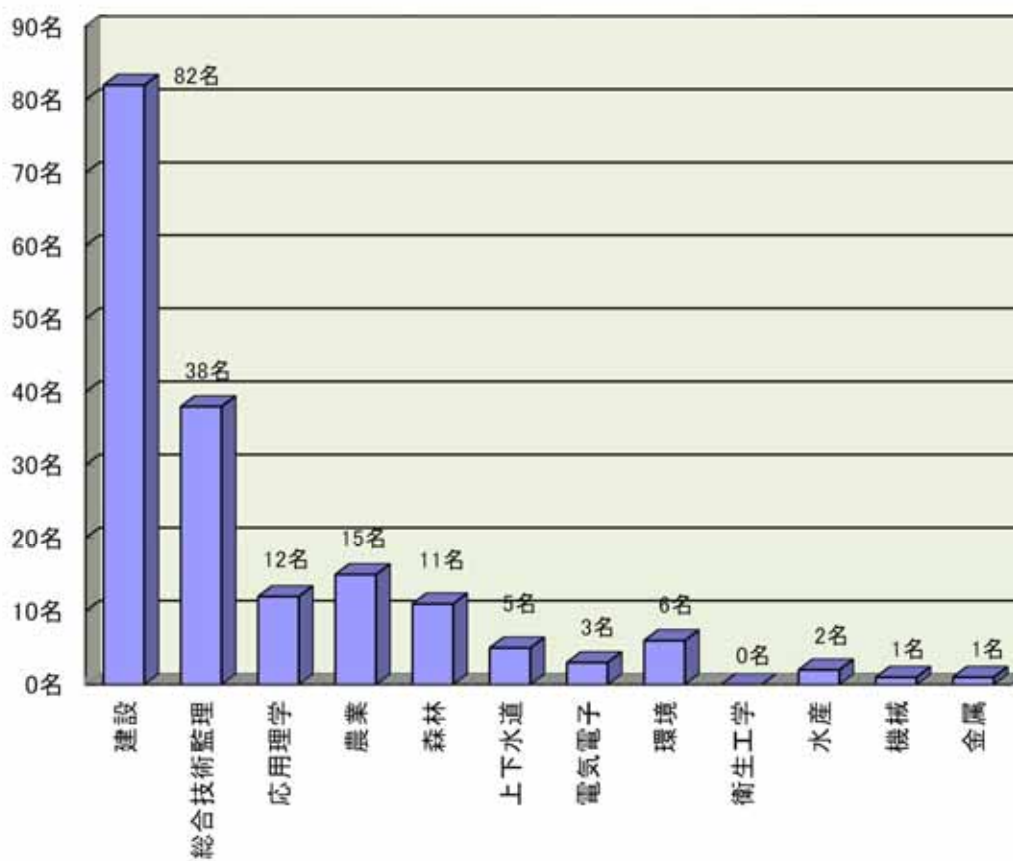
【会 員】119名(実数): 前年度会員数120名

【準 会 員】 9名(実数): 前年度会員数9名

【賛助会員】 8社: 前年度会員数8社

下のグラフに示された各部門の人数は複数部門をカウントした数値になっているので実数と整合しない

岩手県支部会員の部門別状況



2. いわて技術フォーラム

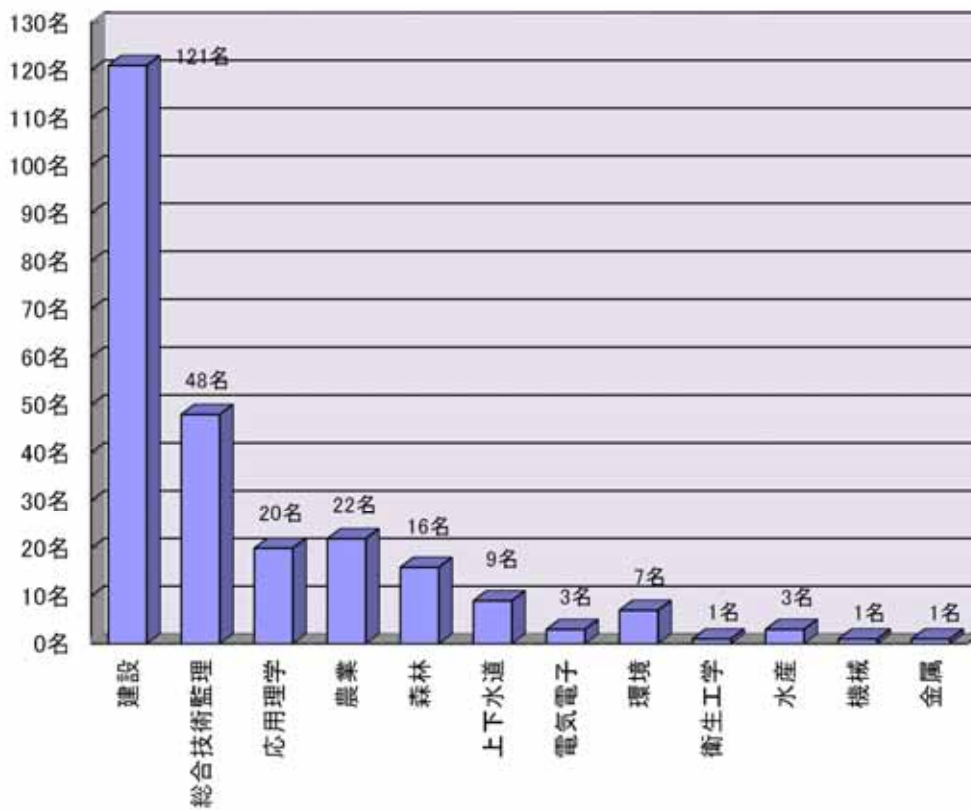
2023年4月時点の会員の動向及び構成は以下の通りである。

【会 員】182名（実数）：前年度会員数187名

【準 会 員】 9名（実数）

下のグラフに示された各部門の人数は複数部門をカウントした数値になっているので実数と整合しない

本部会員+フォーラム会員の部門別状況



※※※※※※※※※※※※※※※※

決算報告書

※※※※※※※※※※※※※※※※

第 17 期

自 2022年 4月 1日

至 2023年 3月31日

統合会計（地域組織）

一般会計

岩手県支部

貸借対照表

2023年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
(単位：円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	640,040	1,065,348	△ 425,308
未収金	260,000	0	260,000
流動資産合計	900,040	1,065,348	△ 165,308
資産合計	900,040	1,065,348	△ 165,308
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	0	60,000	△ 60,000
流動負債合計	0	60,000	△ 60,000
負債合計	0	60,000	△ 60,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産	900,040	1,005,348	△ 105,308
正味財産合計	900,040	1,005,348	△ 105,308
負債及び正味財産合計	900,040	1,065,348	△ 165,308

収支計算書

2022年 4月 1日から2023年 3月31日まで

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
事業収入	[0]	[10,500]	[△ 10,500]
自主事業収入	(0)	(10,500)	(△ 10,500)
参加費収入	0	10,500	△ 10,500
地域組織収入	[590,000]	[590,000]	[0]
地域組織活動費収入	330,000	330,000	0
地域組織活動補助費収入	(260,000)	(260,000)	(0)
講演会・見学会開催補助費収入	260,000	260,000	0
雑収入	[130,000]	[90,069]	[49,931]
受取利息	0	7	△ 7
雑収入	50,000	62	49,938
協賛金収入	80,000	80,000	0
事業活動収入計	720,000	690,569	39,431
2. 事業活動支出			
事業費支出	[720,000]	[785,977]	[△ 65,977]
事業広報費	(210,000)	(49,708)	(161,292)
会誌印刷費	150,000	0	150,000
会誌郵送料	20,000	0	20,000
パンフレット運用費	40,000	32,208	7,792
その他の広報活動費	0	16,500	△ 16,500
研究費	(260,000)	(545,145)	(△ 285,145)
講演会・見学会開催費	260,000	545,145	△ 285,145
業務推進費	(250,000)	(192,024)	(57,976)
会議費	60,000	92,980	△ 32,980
旅費交通費	50,000	0	50,000
通信運搬費	0	11,904	△ 11,904
事務所賃借料	120,000	60,000	60,000
雑費その他	20,000	27,240	△ 7,240
事業活動支出計	720,000	785,977	△ 65,977
事業活動収支差額	0	△ 105,308	105,308
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
投資活動収入計	0	0	0
2. 投資活動支出			
投資活動支出計	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0

科 目	予算額	決算額	差 異
IV 予備費支出	0		0
当期収支差額	0	△ 105,309	105,309
前期繰越収支差額	989,000	1,005,349	△ 36,349
次期繰越収支差額	989,000	900,040	89,960

財産目録

2023年 3月31日現在

統合会計（地域組織）
一般会計

岩手県支部
（単位：円）

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)	預金	普通預金		640,040
		岩手/岩手銀行		640,040
	未収金			260,000
流動資産合計				900,040
資産合計				900,040
正味財産				900,040

監査報告書

令和 5 年 5 月 30 日

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部

支部長 小野寺 徳 雄 様

会計幹事 松原 和 則 

会計幹事 加 藤 修 

公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部 規則第 41 条に基づき、令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日までの令和 4 年度の監査を行ったので、その結果について報告する。

1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する書類を閲覧し、計算書類についての照合その他相当な方法を用いて調査した。

2. 監査結果の意見

収支決算書は、収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

いわて技術フォーラム 2022年度収支決算書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

【収入の部】

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会 費	402,000	372,000	30,000	
会 費 未 収 入 金	30,000	24,000	6,000	
総 会 参 加 費	150,000	0	150,000	
各 種 事 業 参 加 費	150,000	0	150,000	
雑 収 入	14,037	1	14,036	
当 期 収 入 計 (A)	746,037	396,001	350,036	
前 期 繰 越 収 支 差 額	53,963	53,963	0	
収 入 合 計 (B)	800,000	449,964	350,036	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
総 会 費	70,000	5,000	65,000	資料コピー代
役 員 会 費	50,000	0	50,000	
委員会・研究会活動費	300,000	233,595	66,405	活動費、パソコンプリンター代他
広 報 ・ 渉 外 費	230,000	16,500	213,500	新年特集号広告
事 務 費	140,000	91,648	48,352	送料、送金手数料、会費納入送金手数料、事務手数料
小 計	790,000	346,743	443,257	
予 備 費	10,000	5,604	4,396	
当 期 支 出 計 (C)	800,000	352,347	447,653	
当 期 収 支 差 額 (A) - (C)	53,963	43,654	97,617	
次 期 繰 越 収 支 差 額 (B) - (C)	0	97,617	97,617	


監査報告書

令和 5 年 5 月 30 日

いわて技術フォーラム

会長 佐藤 悟 様

会計幹事 松原 和則 

会計幹事 加藤 修 

いわて技術フォーラム規則第 20 条 2 及び 3 項に基づき、令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日までの令和 4 年度の監査を行ったので、その結果について報告する。

1. 監査の方法の概要

会計監査のため、会計に関する書類を閲覧し、計算書類についての照合その他相当な方法を用いて調査した。

2. 監査結果の意見

収支決算書は、収支の状況を適正に表示しているものと認める。

以上

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	広報委員会広報活動 (①ガイアパラダイムへの寄稿②いわてまるごと科学・情報館への出展)
主催	①(公益社団法人)日本技術士会東北本部(ガイアパラダイム) ②いわてまるごと科学館実行委員会・いわて Society5.0 フェア実行委員会
日時	①ガイアパラダイム第75号(2022/07/01), 第76号(2023/01/01) ②いわてまるごと科学・情報館(2022/12/15~12/17)
場所	①ガイアパラダイム技術士東北紙面 ②ビッグルーフ滝沢
参加人数等	①ガイアパラダイム第75号, 第76号は各2名ずつ寄稿 ②4名(岩手県支部より)

活動内容

1. ガイアパラダイム技術士東北への寄稿 (第75号, 第76号)



第75号は寄稿のコーナーに岩手県支部の武田洋一氏による「学生への実習指導を通じて 未来の技術者を育てるための取り組みと気づき」が寄稿されました。各県支部活動は利部哲が岩手県支部2021年度後期活動を報告しました。

第76号には各県支部長年頭の挨拶として小野寺支部長より「東日本大震災津波の「伝承・発信」」が寄稿されました。各県支部活動は利部哲が岩手県支部2022年度前期活動を報告しました。

2. いわてまるごと科学・情報館

協賛団体である(株)タックエンジニアリング様によるCVESmap Viewerや3DマップとVRによる自然体験、UAV操縦シミュレーション等のブース出展の他、パネル展示として今まで当会で実施した「シリーズ岩手を知る」のポスター一覧と技術士についての紹介パネルを作成しました。



パネル展示の様子



ブース出展の様子

今後も引き続き地域に密着した活動を続け、地域経済・産業の発展、福祉の増進への寄与を続けていきたいと考えています。

《利部 記》

公益社団法人日本技術士会東北本部 岩手県支部事業活動報告

事業名	令和4年度道路研究会現場見学会（一般国道4号 水沢東バイパス工事） （CPD番号 4-4）
委員会・研究会名	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部道路研究会
日時	令和4年9月27日（火） 13:30～:16:00
場所	岩手県奥州市水沢
参加人数等	13人

活動内容

～水沢東バイパス工事現場見学～

1. 見学会の概要

- ・見学道路である一般国道4号は、東北地方の地域の暮らしや物流・産業の支え、社会経済の発展に重要な役割を担っている主要幹線道路です。水沢東バイパスは、国土交通省東北地方整備局岩手河川国道事務所により、交通混雑解消や交通安全の確保・沿道環境の改善等を目的に進められている事業です。今回の現場見学では、技術力向上に資することを目的として、東北地方整備局（道路部）が進めるコンクリート構造物の品質確保の取組を行っている下記2現場の見学を行い、現場が抱える課題等について情報共有し、意見交換を行いました。



一般国道4号 水沢東バイパスパンフ
（国土交通省 東北地方整備局
岩手河川国道事務所）より

2. 見学内容

- (1) 館地区道路改良工事（工藤建設株式会社）
工藤建設の高橋監理技術者より、品質・耐久性確保の独自の取り組みを御紹介頂きました。コンクリートの温度管理からバイブレーター等打設方法の工夫等、かなりの力入れようであることが伝わってきました。特に「メッキ結束線」の使用は、初めて見学出来ました。
- (2) 西五郎兵衛地区下部工工事（高惣建設株式会社）
高惣建設の小原監理技術者より、現場が抱える課題と、課題に対する工夫等を御紹介頂きました。特に大震災以降、配筋が密となりコンクリート打設にはかなり苦勞している旨の話がありました。実際現場を見ると現実の厳しさを目の当たりにし、今後は設計時にも現場のことを考える必要性を再認識する見学会でありました。



- ・館地区道路改良工事見学
- ・バイブレターの挿入深さと挿入時間の違いによる、仕上りの違いを確認

[文責：牧野]



- ・西五郎兵衛地区道路改良工事見学
- ・密な配筋により、コンクリートポンプ車からのホースを挿入するにも苦勞している状況

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和4年度河川研究会報告現場研修 (CPD番号4-5)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部河川研究会報告
日時	令和4年10月7日(金) 10:30 ~ 15:00
場所	(1) 西和賀町、(2) 北上市
参加人数等	会員: 30人 説明: 岩手県北上土木センター職員
活動内容	
<p>1 事業概要 (1) 国道107号大石地区災害復旧事業に関すること: 目的: 地滑りによる通行止め解消: 復旧延長L=2447.3m 事業費約130億円 ア) 仮設工 押さえ盛土V=約14万m³、仮橋L=476.2m、道路L=364.5m イ) 恒久対策 トンネル工L=1470m、橋梁工N=1橋 事業期間: 令和3年度~令和8年度 (2) 入畑ダム堆砂対策 令和3年度末で計画堆砂量154万m³に対し147.3万m³と98% 堆砂対策喫緊の課題、現在対策工検討中、事業化に向け県単費で調査計画中。</p> <p>2 現場研修 ※新型コロナウイルス感染症対策を講じ研修を行いました。主な質疑応答を掲載。 (1) 国道107号大石地区災害復旧 ①地滑り現場) ・地滑りの範囲・押さえ盛り土の安全率は?→仮設1.05、本設1.2・現在の動きは?→押さえ盛土と横ボーリングの排水効果で落ち着いている。・地滑りを把握するためのボーリング調査は?→地滑り面まで。・地滑りの誘因は?→降雪が比較的多かったこと+3月の降雨による融雪=地下水による滑り発生+直前の地震発生 と複合的 ②地滑り対岸+仮橋現場) ・杭打ち工法(ガンパイル工法、最大杭長60m) ・仮橋の架設費用?→約13億円 ☆今年の積雪期前までに仮橋の供用を予定していること、令和8年度までの完成に向け着実に進捗していることを実感しました。 (1) 国道107号大石①地滑り現場: 西和賀町) (2) 地滑り対岸+仮橋現場: 西和賀町)</p>	
 	
<p>(2) 県営入畑ダム堆砂対策: ・堆砂量の参考とした湯田ダムに近い地質、地形、山岳状況なのに、なぜ計画の3倍もの堆砂?→山の管理を含めた微妙な地形地質状況の違い、湯田ダムは上流に貯砂ダムがあること。地球温暖化。・堆砂対策工法は?ダムの嵩上げなど?→現在、検討中・公募型土砂撤去はどの程度?→今年度は約5000m³・どのような会社が土砂撤去しているのか?→砂利会社。建設会社である。・毎年どの程度、土砂が堆積するの?→過去31年の平均で約45000m³=堆砂は促進する! ☆堆砂対策は今後検討するとのこと。喫緊の課題であることを実感しました。 (2) 県営入畑ダム: 北上市)</p>	
	

事業報告

活動名	日本技術士会東北本部岩手県支部令和4年度秋季講演会 ～シリーズ岩手を知る（第25回）～ 「微動アレイ探査による地域の地震ハザードの評価」 ～ 地震が起こる前に被害が起きそうな場所を予測する ～ (CPD 番号 -)
主催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日時	令和4年10月8日（土）15:00～16:30
場所	エスポワールいわて（盛岡市中央通 1-1-38）
参加人数等	39名（会場29名（学生1名含む） WEB 配信視聴 10名）
活動内容	
<p>1. 講演内容</p> <p>【講師】 国立大学法人岩手大学理工学部システム創成工学科社会基盤・環境コース 准教授 山本 英和</p> <p>岩手大学の山本准教授を招き、地震被害を予測する微動アレイ探査を中心に講演した。講演に先立って小野寺支部長が挨拶し、8月の大雨や台風による県北部の被害や気候変動による自然災害の激甚化に触れ「自然災害に対する技術士の果たす役割が重要になってきている」と述べられた。</p> <p>山本准教授は、地震危険度予測に関する研究を軸に地盤増幅率（揺れやすさ）を評価するための地下構造探査法の開発を進めてきた。微動アレイ探査は自然現象や人間活動により発生した微動振動を多点同時観測（アレイ観測）による地下探査法であり、非破壊かつ震源を必要とせず地盤増幅率を得ることが出来る手法である。国の地震被害予測に比べ緻密詳細な被害予測が可能で地域防災対策への貢献が期待されている。</p> <p>これまで、盛岡市内を中心に陸前高田市、久慈市、矢巾町を調査しており、本講演では2021年調査の矢巾町中心部の調査結果を詳細に紹介した。2003年宮城県沖地震の住民へのアンケート震度、全国地震動予測地図、本探査による地盤増幅率分布マップを示し、住民の体感と探査結果が正しい方向であると結論付け、盛岡市内も今後多くの地域での探査実施を試みたいと述べられた。最後の質疑応答では質疑者の矢巾町での地盤調査経験と照らし合わせたものがあり、地域防災対策における技術士の知見を深めるものとなった。 （文責 武田洋一）</p>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>小野寺支部長の挨拶</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>講師の山本英和先生（岩手大准教授）</p> </div> </div>	
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>質疑応答の様子</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>受付（感染症対策検温実施）</p> </div> </div>	

(公社) 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 研究会 活動報告

活動名	令和4年度 森林・水産研究会 現地研修会
主催	日本技術士会東北本部岩手県支部 森林水産研究会
日時	令和4年10月14日(金) 8:30 ~17:30
場所	青森県中津軽郡西目屋村川原平外(白神山地ブナ林)
参加人数等	15人(本部会員13名 非本部会員2名)

活動内容

(1) 車中での話題提供

白神山地まで向かう移動時間を利用し、4名の方が話題提供を行い、車中で意見交換を実施した。

(往路)

①「除草剤等による下刈り作業の軽減について」外館聖八朗氏(㈱イワリン)
→岩手県の素材生産や再生林の現状、再生林時の下草刈の作業軽減策に関する取り組み

②「2021年8月に青森県下北北部で発生した土砂災害について」広瀬伸二氏(㈱メック東日本)
→昨年発生した災害状況と復旧計画に関する取り組み

(帰路)

③「林業分野におけるDX スマート林業・林業イノベーション推進 林業へのICT技術の活用について」安野雅満氏(㈱昭和土木設計)
→建設DXとスマート林業との対比や、スマート林業の取り組みの歴史、現在の状況

④「集水井工の維持管理・コンクリート塩分迅速調査技術」佐藤達也氏(国土防災技術㈱)
→三次元解析技術による点検手法や、コンクリート塩分の迅速調査について



ブナ林散策状況



車中での話題提供

(2) 世界遺産の径(みち) ブナ林視察

世界遺産である白神山地のブナ林現地を視察した。視察では、アクアグリーンビレッジ ANMON の工藤氏より、世界遺産の成り立ちや白神山地の現状、白神山地を生きる植物・動物・菌類等について、その生態や人々と白神山地のかかわり方、歴史など様々な解説を受けた。

今回の研修は、世界遺産である白神山地をじっくりと視察することができた。また車中の話題提供では活発な意見交換を行うなど、内容の濃い有意義な研修会を行うことができた。



集合写真

以上 (文責 森)

活動名	令和4年度 農業研究会 現場研修会 (CPD 番号 4-8)
委員会・研究会名	(公社) 日本技術士会 東北本部 岩手県支部 農業研究会
日時	令和4年10月27日(木) 12:30:~17:30
場所	岩手県盛岡市、八幡平市、紫波町
参加人数等	会員7人、一般19人、合計26人 説明者：岩手県 盛岡広域振興局 農政部農村整備室 農村環境課2名、農村整備課3名
活動内容	
<p>I. 研究会活動報告</p> <p>岩手県支部農業研究会では、会員の技術研鑽に資する活動の一環として、昨年の「農業水利、ため池整備事業」に引き続き「農地整備事業（農道橋、ほ場整備とスマート農業、揚水機場整備）」をテーマにした現地研修会を企画しました。</p> <p>II. 農地整備事業（通作条件整備）巻堀2期地区について 講師：盛岡広域振興局 農政部 農村整備室 技術主幹兼農村環境課長 佐藤 力也 氏、技師 村上 千映 氏</p> <p>(1) 巻堀2期地区（橋梁工事L=49.7m、道路工事L=442.0m）</p> <p>本地区は、盛岡市北部（旧玉山村巻堀）に位置し、平坦地では水稲、酪農及び野菜を、丘陵地では酪農と野菜の経営を行っている。地区を縦断する国道4号線沿いに、集落及び地区の農業施設が集中しており、この国道を通作や輸送に利用してきたが、年々交通量が増え危険な状況となっている。これらの営農課題を解決するために、東側の畑作地帯を縦断し、南端で国道と北上川を横断する本地区の農道計画により農業車両の通行の安全を確保し、農畜産物、生産資材の輸送の合理化を図り、地域の農業振興と生活環境の改善を図ることとしている。</p> <p>ア 事業概要</p> <p>① 事業名 農地整備事業（通作条件整備） 地区名 巻堀2期地区 ② 事業内容 橋梁工事L=49.7m、道路工事L=442.0m ③ 事業期間 平成25年度～令和4年度</p> <p>イ 橋梁の設計</p> <p>① 橋長 49.7m、桁長 49.5m、支間長 48.5m 総幅員 6.2m（有効幅員 5.0m） ② 構造形式（上部工）ポストテンション方式PCバルブT桁橋 構造形式（下部工）逆T式橋台（杭基礎）</p> <p>ウ 施工の特徴</p> <p>① 橋桁の接合ヤードを設け、軌道を敷設。 ② 7分割されたPCセグメント桁を、100t吊油圧式トラッククレーンで軌道上に設置。 ③ PCセグメント桁の位置を調整し、PC緊張、グラウト注入により一体化。 ④ チェーンブロックにより、桁を所定の位置に調整して据付ける。</p> <p>エ 工事の課題と対応策</p> <p>① 支間長 48.5mは、農道橋で国内最長クラス。架橋位置付近にはアユなどの魚類が生息しており、橋梁下部施工における河川仮締切工ではこれらへの影響が避けられなく、影響度を最小限にするため、ワンスパンの本工法を選択したこと。 ② 工事現場周辺には巻堀小学校があり、児童の通学や住民の通行も多いため、工事車両の通行には特に留意して施工したこと。</p>	

③ 舗装に先立ち巻堀小学校生徒が床版にペイント。令和5年4月15日に開通式を予定。



完成した橋梁をバックに説明を受ける



支間長48.5mは、農道事業では国内最長クラス

Ⅲ. 農地整備事業（経営体育成型）後藤川地区（ほ場整備）について

講師：盛岡広域振興局 農政部 農村整備室

農地整備課長 今野 徹 氏、主任主査 菊池 敬 氏、主査 佐藤 徹郎 氏

(1) 後藤川地区（スマート農業）

ア 事業概要

- ① 事業名 農地整備事業（経営体育成型）、地区名 後藤川地区
- ② 事業内容 区画整理（大区画）、支線・耕作道路の整備、用水のパイプライン化、排水路コンクリート装工、暗渠排水工
- ③ 事業量 整地工103.1ha、道路工8.5km、用水路工15.2km、排水路工9.7km
暗渠排水工102.3ha
- ④ 工期 平成30年度～令和9年度（予定）

イ 課題及び対応策

本地区は、八幡平市役所の庁舎東側に接する受益面積約100haのほ場整備。事業実施にあたって八幡平市からは「他の見本となるような圃場整備にしてほしい」との要望があり、スマート農業の導入を検討。下記①～⑥の県内でのスマート農業事例について、本地区に適した事例を受益者等と検討し、①を採用。

- ① ICTを活用した自動給排水システムの設置：水管理労力軽減・・・（採用）
- ② のり面への芝吹付け：草刈り作業軽減
- ③ 畦畔の緩勾配施工：自動草刈り機導入、草刈り作業労力軽減
- ④ ターン農道設置：作業効率向上
- ⑤ 自動走行農業機械の導入：作業労力及び時間軽減
- ⑥ 田んぼダムの設置：洪水被害軽減

なお、この取組は面工事がある程度進んだエリアから、随時導入していくこととしている。



八幡平市庁舎前で岩手山をバックに説明を受ける



導入を予定している自動給水管理システム

IV 農地整備事業（経営体育成型）星山・犬吠森地区について

講師：同室 農地整備課長 今野 徹 氏、主任主査 菊池 敬 氏、主査 佐藤 徹郎 氏

(1) 星山・犬吠森地区（揚水機場）

ア 事業概要

- ① 事業名 農地整備事業（経営体育成型）、地区名 星山・犬吠森地区
- ② 事業内容 区画拡大、耕作道路整備、パイプライン化、排水路コンクリート装工、暗渠排水、揚水機場整備（彦部第一揚水機場）
- ③ 事業期間 平成 26～令和 6 年度（予定）

イ 彦部第一揚水機場の施工課題及び対応策

当初、彦部第一揚水機場の電源は、かんがい期を使用期間とする農事用電源（高圧）と、操作盤内の結露防止用電源及び施設電灯電源を受電契約と想定していたが、経済産業省の省令に基づく「原則、一需要場所一契約」の適用を受けることが判明し、その結果、通年の高圧受電契約となり、その高額な電気使用料が問題となった。かんがい期間の農事用電源の使用を前提にした電気使用料の見直しが課題となった。

対応策として、通年受電を見直し、かんがい期間のみ農事用電源の契約とし、かんがい期間以外は通電しないこととした。なお、操作盤内の結露防止対策は配電盤専用（市販品）の乾燥材で十分な効果が得られるため、通電による結露防止策を取り止めている。



彦部第一揚水機場の前で説明を受ける



屋内の制御盤前、通電期間外なので夕方は薄暗い（懐中電灯があれば問題ない、盤内には市販の乾燥材）

IV. 編集後記

今年度の現地研修会は、近年、農業農村整備事業では少なくなった農道橋工事の現場や、これからの現場整備対応の主流となる先進的なスマート農業の取組み、揚水機場整備にかかる水利権の変更手続き、電力料金の検討など、盛りだくさんの研修内容になりました。

昨年に続き若い技術者の参加が多く、女性技術者も全体の 1/3 を占めました。また、研修会場では活発な質疑があり、その都度、丁寧なわかりやすい説明・回答を受けました。

来年も本企画の継続を要望する声が寄せられ、引き続き会員の方々からの要望に応えられる企画をご案内して参る所存です。

結びに研修会の講師を快くお引き受けくださいました盛岡広域振興局 農政部 農村整備室の技術主幹兼農村環境課長 佐藤力也 様、技師 村上千映 様、農地整備課長 今野徹 様、主任主査 菊池敬 様、主査 佐藤徹郎 様には紙面を借りて厚く感謝申し上げます。



（文責 佐藤 俊孝）

活動名	令和4年度応用理学研究会野外見学会 (CPD番号 4-9)
主催	(公社) 日本技術士会東北本部岩手県支部応用理学研究会
日時	2022年10月28日(金) 9:00~16:30
場所	北上市和賀町岩崎新田、山口、横川目、岩沢地内
参加人数等	総勢24名(講師1名、現地案内2名を含む)
活動内容	
<p>岩手県支部応用理学研究会では、昨年度に引き続き、継続研鑽の一環として現場見学会を企画し、次のような内容と行程で見学を行いました。</p> <p>テーマ：北上市西部における新第三紀の地質見学と水沢鉱山跡を訪ねて 講師：大石雅之氏(理学博士/元岩手県立博物館学芸部長/岩手県立博物館研究協力員/東北大学総合学術博物館協力研究員/三陸ジオパーク学術アドバイザー)</p> <p>※水沢鉱山跡の現地案内：早川英信氏(北上市岩沢地区自治会会長) ：泉喜久雄氏(北上市岩沢地区自治会副会長)</p> <p>※オブザーバー参加：佐藤修一郎氏(岩手県立博物館 専門学芸調査員)</p> <p><行程>：9:00 瀬美温泉駐車場に集合し開会挨拶、自己紹介、注意事項など 9:15~10:15 Stop1・2 夏油川・外鱒沢での地質観察 10:45~11:45 Stop3 鈴鴨林道ヨリ沢での地質観察 12:00~12:45 昼食(ふるさと体験館北上：特製お弁当) 13:00~14:00 Stop4 菱内川での地質観察 14:10~14:25 Stop5 綱取の大断崖の観察 14:35~14:50 Stop6 岩沢駅で水沢鉱山資料展示見学 15:00~16:00 Stop7 水沢鉱山跡見学 16:15~16:30 岩沢駅にて閉会(御礼・挨拶・順次解散→帰路、北上西IC等で順次解散)</p> <p>当日は、好天に恵まれ何よりでしたが、お昼休みが短くなるなど余裕のない工程になってしまっ て申し訳ございませんでした。とはいえ、大石先生からのたくさんの貴重な地質の話、急崖ありの 山道歩いての地質観察、沢を渡っての魚鱗化石と断層の観察、隆盛に思いを馳せての水沢鉱山跡の 見学、予想外のキノコ採取などもあり、紅葉を愛でながらの貴重な秋の一日となりました。 丁寧なご説明を頂いた大石先生、水沢鉱山で現地案内を頂いた早川さん、泉さんに、そして事故 なく無事に見学会を行えまして、参加の皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。 《菅原 弘 記》</p> <p>・・・活動状況写真・・・</p>	
	
<p>← Stop1 瀬美温泉駐車場で集合の様子</p> <p>好天に恵まれ、自己紹介などの後、見学会のスタートです。 今日一日、安全に気をつけて、よろしくお願いします。</p>	



↑ Stop2 講師の大石先生

それぞれの観察場所で、丁寧な説明をしていただきました。
ありがとうございました。

↓ Stop3 ヨリ沢での集合写真

竜の口層の見事な貝化石層の前で集合写真を撮影しました。
このポイントでは本畑層ヨリ沢凝灰岩の火山豆石や、地すべり地形も観察しました。



↑ Stop2 外鱒沢での地質観察

中新世後期から鮮新世の地質である竜の口層と鮮新世の地質である本畑層の地質を、砂防堰堤の管理道路から観察しました。

竜の口層は貝化石を含む海成層ですが、本畑層は亜炭層を含む陸域の地層です。この観察ポイントでは二つの地層の境界（不整合）付近が良く観察でき、大石先生から、地層境界に関する詳しいお話をさせていただきました。





↑ Stop4 菱内川での地質観察

竜の口層よりやや古い中新世後期の地質である菱内層の地質を観察しました。菱内層は砂岩泥岩の互層であり、魚の鱗の化石をたくさん見ることができます。また、植物の葉や丹念に探すと魚の骨の化石を見つけることができます。さらに、露頭では断層を観察することもできました。

↓ Stop5 網取の大断崖

国道脇の駐車場から、「網取断層」を遠望観察しました。植生の繁茂が著しいこと、「断層」の呼称は訂正されるべきことなどの説明をしていただきました。

↓ Stop6 岩沢駅水沢鉱山展示資料室

岩沢地区自治会長の早川英信氏から展示資料の解説をしていただきました。ありがとうございました。





↑ Stop7 水沢鉱山跡での集合写真

水沢鉱山は、白亜紀の花崗閃緑岩中に胚胎する鉱脈型鉱床で、主として銅を産出しました。製錬所では、大正年間の最盛期には1日あたり精鉱20トンの処理が可能だったといわれ、周辺に3000人が暮らし、学校や郵便局、駐在所、劇場までありました。

↑ Stop7 ズリ捨て場の観察

紅葉の中、林道を少し歩いてズリ捨て場に行きました。緑色の酸化銅が混じる花崗岩や小さな水晶を含む岩石などが観察できました。



↑ 岩沢駅(綱取断崖がモチーフの駅舎)での閉会

最後に小野寺徳雄支部長からご挨拶を頂いて閉会となりました。
ご参加の皆様、お疲れ様でした。
安全運転で御戻りください。《菅原 記》—以上—

岩手県支部 鉄道研究会 活動報告

活動名	現場研修会 (CPD 番号 -)
主催	鉄道研究会
日時	2022年11月17日(木) 14:00～15:00
場所	岩手飯岡駅
参加人数等	4人

活動内容

1. 現場研修会の概要
 - (1) 現場事務所内で事業概要及び工事内容確認
 - (2) 工事現場内からの工事実施状況確認
2. 現場研修状況
 - (1) 現場事務室に於いて事業概要及び工事内容の説明
 - (2) 工事現場から事業概要及び工事内容、及び各施設の仕上がり状況の確認
 - (3) 今後の工事として、既設こ線橋の撤去等

以上について詳しく説明していただきました



現場事務所内



工事現場内



終了後に集合写真

《菊池英雄記》

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	盛岡広域振興局土木部 BIM/CIM 勉強会
主催	盛岡広域振興局土木部 建設 ICT 生産システム研究会
日時	2022年11月30日(水) 13:30~15:30
場所	盛岡広域振興局 8F 大会議室
参加人数等	16人

活動内容

【勉強会の主旨】

国土交通省が推進している BIM/CIM（建設生産・管理システム）が 2023 年に原則適用になるなど建設分野においても DX の動きが活発化している。さらに、岩手県県土整備部においては「BIM/CIM 活用業務実施要領」が 12 月 1 日から適用になるなど、国土交通省に追随した施策が展開される。

こうした中、盛岡広域振興局土木部の高橋部長より、県支部建設 ICT 生産システム研究会に対し勉強会開催の要請があり、今回の開催に至った。

勉強会は、高橋部長の挨拶の後、次の 2 部構成でペーパーレス形式の勉強会が行われた。

第 1 部 建設分野の変革に向けて

日本技術士会東北本部岩手県支部 建設 ICT 生産システム研究会 副代表 村上功

第 2 部 BIM/CIM 勉強会 株式会社 昭和土木設計 ICT 推進室室長 佐々木高志

① 建設分野の課題と建設 DX

- 建設分野を取り巻く環境
- 建設産業の改革と変革

② BIM/CIM の概要

- 活用の概要
- 実施方針（国土交通省東北地方整備局）

③ BIM/CIM 事例紹介

- 活用事例

勉強会終了後、質疑が取り交わされ終了した。



以上

文責：村上 功

岩 手 県 支 部 委 員 会 ・ 研 究 会 活 動 報 告

活 動 名	令和4年度第1回いわて技術士交流会	(CPD 番号 -)
主 催	いわて技術フォーラム	
日 時	2022年 12月 21日 (水) 18:00 ~ 19:00	
場 所	桜山神社 参集殿 1階『松の間』	
参加人数等	会場参加 9人 Web参加 3人	
活 動 内 容		
<p>◇ 業務研究発表1: 『大雨洪水、大規模災害対応について』 発 表 者: 高橋 正博 氏 (岩手県 盛岡広域振興局土木部長)</p> <p>(1) 発表の主旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の大雨洪水大規模災害に関すること ・大雨洪水時の情報収集に関すること ・大雨洪水大規模災害時のタイムラインに関すること <p>(2) 最近の大雨洪水大規模災害に関すること</p> <p>近年の大雨洪水や大規模災害は、3年間隔で発生している。短時間降水量の影響が大きく総降水量が150mm以上の場合大規模災害の可能性が高くなる傾向がある。</p> <p>(3) 大雨洪水時の情報収集に関すること</p> <p>県民の安全確保を早期に行うために河川課の『岩手県河川情報システム』や気象庁の『雨雲レーダー』やネットの『tenki.jp』を活用し対応している。</p> <p>(4) 大雨洪水大規模災害時のタイムラインに関すること</p> <p>タイムラインとして心掛けていることは、『事前準備』『洪水災害当日』『大雨後1週間』『大雨後1か月』『大雨後2~3か月』5つのフェーズで考えている。5つのフェーズの中で情報収集、情報発信、住民説明、再建対応、要望対応や災害ま査定台風検証委員会などを実施している。</p> <p>(5) 思い出に残る大雨洪水災害 3例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一関市東山 砂鉄川 松川地区 河川改修済の区間で大規模浸水被害が発生し地元の方から厳しいお叱りを受けた。河道掘削や河道内の樹木の伐採、樋門の無人力化等を説明会し意見交換を行った。 ● 盛岡市玉山 松川 下田・川崎地区 深夜に大規模な浸水が発生し、浸水発生地点を特定するのが困難であった。 ● 大槌町 大ケ口 河川改修済み区間において堤防が決壊寸前まで至ってしまい地元の方から厳しいお叱りを受けた。応急対応と護岸復旧で対応した。 <p>(6) まとめ</p> <p>災害経験を積むことでタイムラインの構築や災害の振り返り等により、次の災害に備えることができる。</p>		
<p>◇ 業務研究発表1: 『橋梁点検事例の紹介』 発 表 者: 佐々木 佳浩 氏 (株式会社 東建工営 北東北支社 盛岡支店長)</p> <p>(1) 発表の主旨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 (経歴および現在取り組んでいる業務) ・橋梁点検時の損傷紹介や復旧対策 <p>(2) 橋梁点検時の損傷紹介や復旧対策</p> <p>橋梁点検は、各県により業務の進め方によりかなり違いがある。地域により対応を考え作業遂行している。</p> <p>東日本大震災の道路や東北新幹線の橋脚の事例を紹介し、早急な事業の進め方や大型クレーンによる早急な対応など点検や対策などの説明があった。</p> <p style="text-align: right;">《 番澤 記 》</p>		

岩手県支部 委員会・研究会 活動報告

活動名	令和4年度鋼構造コンクリート研究会報告 (CPD 番号 -)
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部鋼構造コンクリート研究会
日時	令和5年1月28日(土) 10:00 ~ 11:00
場所	オンライン研修
参加人数等	会員：5人 説明：遊田勝氏、菅原常彦氏
活動内容	
<p>1 岩手県の橋梁の現状と課題・・・・・・・・・・・・・・・・・・遊田勝氏</p> <p>(1) 岩手県の特徴 全体：森林面積77%（面積：全国2位、森林率：全国7位） 内陸：奥羽山脈：標高約1,000～2,000m前後の山々 最高地点：岩手山2,038m、沿岸：三陸海岸、北部は海岸段丘、南部はリアス式海岸 気候：積雪寒冷地域（藪川 -30℃、本州一寒い） 積雪2m超（西和賀町、八幡平の雪の回廊） ＊沿岸や南部では積雪量少、凍結防止剤未散布 主要道路：国道4号、東北自動車道、復興道路・復興支援道路等 橋梁数（橋長2m以上）岩手県管理橋梁数：2776橋、市町村管理橋梁数：約1万橋（33市町村合計）</p> <p>(2) 橋梁の主な劣化事例： 塩害再劣化（補修工事から10年後）、ASR(県南地域)、ASR(県北地域)</p>  <p>(3) 話題提供：塩害調査、ASR調査、補修設計（鋼材）、補修設計（コンクリート：塩害）、補修設計（コンクリート：ASR）、点検方法（修繕計画）、アセットマネジメントの取組み</p> <p>(4) 産官学研究の取組み：岩手大学・北上市、岩手大学・岩手県</p> <p>2 岩手県の道路メンテナンスへの取組等について・・・・・・・・・・菅原常彦氏</p> <p>(1) 岩手県の道路インフラの現況等 ・岩手県には、国、県、市町村が管理する道路が約 33,400km 存在 ・そのうち、県が管理する道路（道路、県道）は約 4,200km（255 路線）</p> <p>(2) 道路の老朽化対策の経緯 ・岩手県の橋梁には、国、県、市町村等が管理する橋梁が約 14,000 橋存在 ・そのうち、県が管理する橋梁（国道、県道）は約 2,800 橋あるが、建設後 50 年経過した橋梁の割合は現在の約 4 割から 20 年後は約 8 割まで増加</p> <p>(3) 法定点検とその結果について ・道路法の改正（平成 25 年 6 月）・・・点検基準の法定化 ・定期点検に関する省令・告示公布（平成 26.3.31）・・・5 年に 1 回、近接目視による点検</p> <p>(4) 高校生との協働による橋梁点検について ・健全性診断：現地での点検結果を踏まえて、県等の指導を受け高校生が点検橋梁の健全性を診断。 ・報告会：高校生との協働による橋梁点検の成果は点検調査書として取りまとめ、報告会で県に提出。点検調査書には橋梁点検を実施した生徒の名前も記載され、岩手県道路橋長寿命化修繕計画や補修設計等の基礎資料として活用。</p>	
以上	

事 業 報 告

活 動 名	日本技術士会東北本部岩手県支部令和4年度新春講演会 ～シリーズ岩手を知る(第26回)～ 「地域と共に創る減災を目指して」 ～ 近年の東北地方で多発する土砂災害から学ぶこと ～ (CPD 番号 -)
主 催	公益社団法人 日本技術士会 東北本部 岩手県支部
日 時	令和5年1月28日(土) 15:00～16:30
場 所	エスポワールいわて(盛岡市中央通1-1-38)
参加人数等	48名(会場40名 WEB配信視聴8名)
活 動 内 容	
<p>1. 講演内容</p> <p>【講師】 NPO 法人土砂災害防止広報センター 理事 岩手大学名誉教授・非常勤講師(前岩手大学農学部森林科学科 教授) 井良沢 道也 氏</p> <p>NPO 法人土砂災害防止広報センターの井良沢氏を招き「地域と共に創る減災を目指して」と題して講演した。講演に先立って小野寺支部長が挨拶し、今年度の研究会活動が活発だったことに関する謝意を伝えるとともに、盛岡市がニューヨークタイムスの「23年に行くべき52カ所」で歩いて回れる珠玉の町として評価を受けたことに対し、「技術士会の皆さんの活動も貢献しているのではないか」と述べた。</p> <p>井良沢氏は、近年の東北地方の土砂災害の特徴や、住民の警戒避難の課題、災害を語り継ぐためになど、全国各地の事例をもとにきめ細かく説明。近年の東北地方の土砂災害の特徴を「予兆なき災害」、「新たな天地創造」、「隠された地形」として、現時点での予測が非常に困難であり、東北の巨大地震が作った地形が多く、火山灰、風化花崗岩などで谷の形成が未発達な斜面では、気象条件の影響を受けやすいため留意する必要があると述べられました。また、住民の警戒避難における課題に対して、地域全体での避難行動を高める施策として行政主導の「送迎非難」の検討や、土砂災害の避難訓練など実効性のある非難に向けた取り組みの重要性について述べるとともに、災害を語り継ぐためには学校と行政が連携して多くの土砂災害防災教育の実践がなされ、「学ぶ立場」「ボランティアの立場」「語り部の立場」など様々な立場で関与して行くことが必要だと述べられました。</p> <p>最後に、スマートフォンのライダー機能を斜面防災に活用した事例を述べ、「皆様方にはほかに良いアイデアをお持ちと思います。ぜひ実践&情報共有願います。」と訴えられました。</p> <p>(文責 工藤将英)</p>	
	
小野寺支部長の挨拶	
	
講師の井良沢氏	
	
会場入り口	
	
受付(感染症対策検温実施)	

活動名	施工研究会現場研修（杜の大橋）（CPD 番号 3-13）
主催	公益社団法人日本技術士会東北本部岩手県支部施工研究会
日時	2023年2月17日（金）
場所	盛岡市盛岡駅前通1丁目～本宮松幅地内
参加人数等	19人

活動内容

（説明者）

発注者盛岡地方振興局土木部：山本道路整備課長、櫻庭総括主査

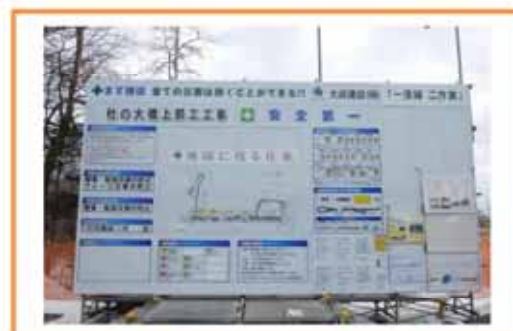
施工者：大成建設(株)大平作業所長

（1）工事概要説明

- ・説明板の前において、発注者から事業概要、施工者から現在の進捗状況について説明を受けた。

（事業概要）

杜の大橋2期上部工工事 L=494m 事業期間；平成24年度から令和6年度
7径間連続PC箱桁 移動車業車による張り出し工法



(現在の工事状況)

- ・ P3, P4 は張出工事進行中 (4~5 ブロック)、P2 については移動作業車セット中
- ・ 張り出しは 2 機の装置を施工済みブロックにアンカーで固定し、スライドして順次張り出す。
- ・ 河川条件が厳しいため、仮設栈橋は非洪水期 (10 月から 3 月) に施工期間が制限されている
- ・ ICT 技術として①移動作業車管理システム②上げ越し管理システム③自動緊張管理システム④自動出来形管理システムと T-iAlert River (出水警報システム) を活用している。



P4 橋脚張り出し



P3 橋脚張り出し



P2 橋脚張り出し



P3 橋脚上の移動作業車



集合写真

(平井記)

1. 岩手県支部長について

- ・ 2023年4月21日：古山裕康氏が東北本部幹事に当選
- ・ 2023年7月10日：東北本部年次大会の場で東北本部長から古山裕康氏に、岩手県支部長の委嘱状が交付される予定

2. いわて技術フォーラム代表幹事について

以下の「いわて技術フォーラム代表幹事選挙告示 R5.5.15」に基づき代表幹事選挙を行う。

いわて技術フォーラム代表幹事選挙告示

令和5年5月15日
選挙管理委員会 委員長 菊池 英雄
委員 多田 信之
委員 藤井 祐

いわて技術フォーラムの代表幹事選挙を下記により告示します。

記

- 1 選任する役員数
代表幹事 1名
- 2 立候補の届出
 - (1) 立候補者の資格
いわて技術フォーラム会員
 - (2) 届出の手続き
 - ① 立候補する者または候補者を推薦する者は、「別紙-1」の立候補届（推薦届）を事務局に提出すること（郵送、メール添付可）
 - ② 推薦の場合は本人の同意を得てから行うこと
 - ③ 立候補届及び推薦届には、候補者の氏名、生年月日、略歴、入会年、所信などを記載すること
 - (3) 届出の期間
令和5年6月5日（月）から令和6年6月16日（金）まで（必着）
 - (4) 届出の宛先
〒020-0122 岩手県盛岡市みたけ四丁目4番20号
土木技術会館内 いわて技術フォーラム事務局
Fax : 019-643-8892 e-mail : i.kikuchi@idcenter.jp
- 4 立候補受付状況の公開
立候補届出者の氏名等は、会員に別途通知します。
- 5 投票
 - (1) 投票期日
令和5年7月1日（土）に開催する年次大会において投票します。
 - (2) 投票方法
年次大会出席会員による無記名投票とし、投票用紙は大会の席上で配布します。
投票方法の詳細は総会の席上で説明します。
- 6 開票
即時開票します。

以上

いわて技術フォーラム代表幹事選挙立候補届（推薦届）様式

候補者氏名	
推薦人 （*注-1）	
技術部門 合格年 （*注-2）	
略歴	生年月日 年 月 日
入会年	（岩手県技術士会入会またはいわて技術フォーラム入会年）
所信	
備考	

*：本人立候補の場合は「立候補届」、他薦の場合は「推薦届」とし、不要な方の文字を抹消する

*注-1：他薦の場合のみ記載する

*注-2：複数の部門登録がある場合は、複数記載する

新・旧役員一覧表

上段：【県支部】 下段：【フォーラム】

太字：変更あり

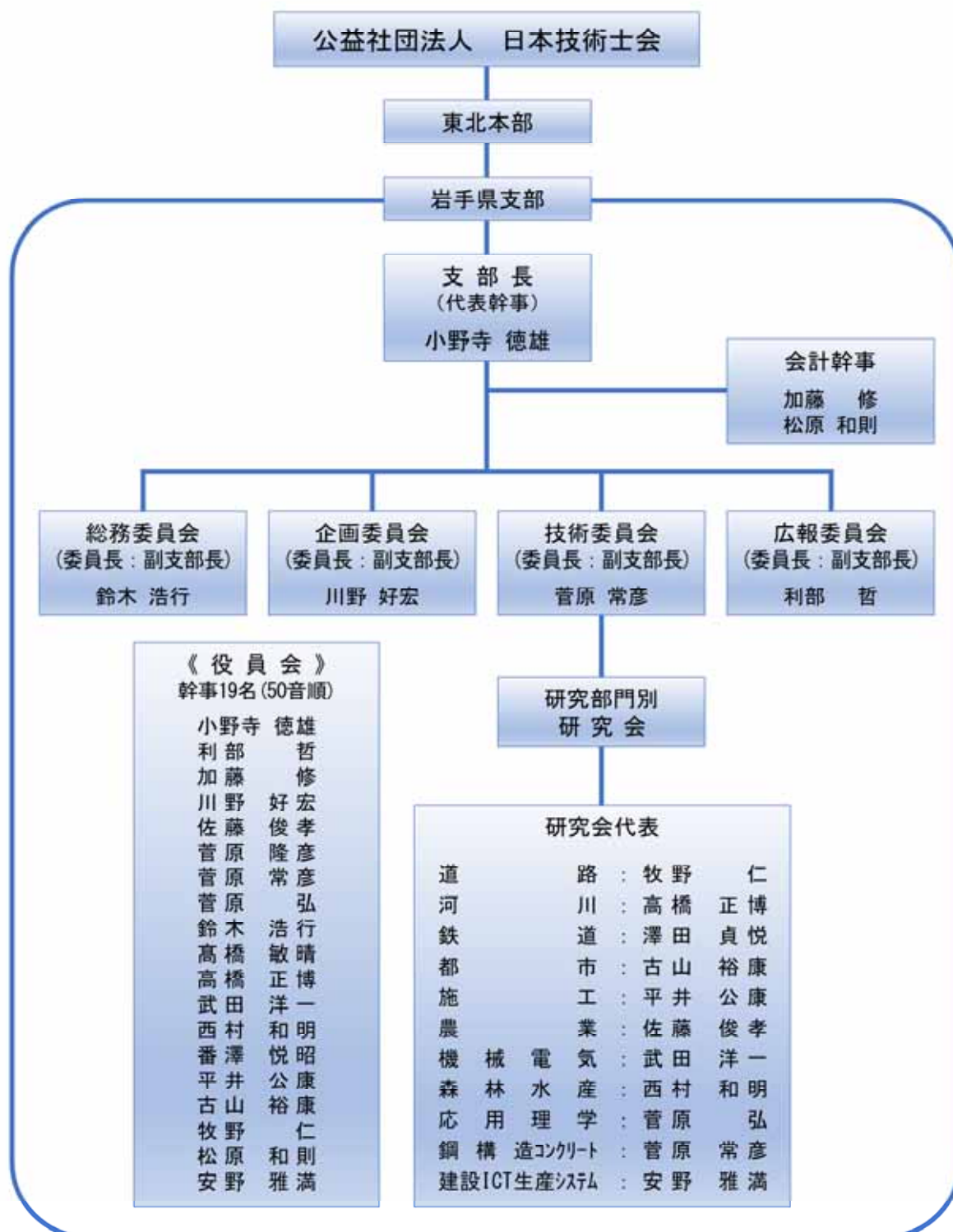
(2023.07.01)

氏名の は本部会員、Fはフォーラム会員		旧(2021～22年度)	新(2023～24年度)	
支部長(代表幹事)		小野寺 徳雄	古山 裕康	
代表幹事		F 佐藤 悟	フォーラム選挙による	
副支部長 (副代表幹事)	総務委員長	鈴木 浩行	番澤 悦昭	
		川野 好宏	川野 好宏	
	企画委員長	川野 好宏	川野 好宏	
		"	"	
	広報委員長	利部 哲	利部 哲	
		"	"	
	技術委員長	菅原 常彦	菅原 常彦	
		"	"	
研究会代表	道路研究会	牧野 仁	熊谷 利明	
		"	"	
	河川研究会	高橋 正博	高橋 正博	
		"	"	
	鉄道研究会	澤田 貞悦	澤田 貞悦	
		"	"	
	都市研究会	古山 裕康	佐藤 充弘	
		"	"	
	施工研究会	平井 公康	平井 公康	
		"	"	
	農業研究会	佐藤 俊孝	佐藤 俊孝	
		"	"	
	機械電気研究会	武田 洋一	武田 洋一	
		"	"	
森林水産研究会	西村 和明	西村 和明		
	小原 正明	小原 正明		
応用理学研究会	菅原 弘	菅原 弘		
	"	"		
鋼構造コンクリート研究会	菅原 常彦	菅原 常彦		
	"	"		
建設ICT生産システム研究会	安野 雅満	村上 功	オブザーバー	
	"	"		
副委員長	総務副委員長	菅原 隆彦	加藤 修	
		"	"	
	企画副委員長	番澤 悦昭	永田 裕一	
		"	"	
	広報副委員長	高橋 敏晴	高橋 敏晴	
		"	"	
	技術副委員長	平井 公康	本間 崇志	
		"	"	
会 計 幹 事		加藤 修	菅原 隆彦	
		"	"	
		松原 和則	松原 和則	
		"	"	

公益社団法人日本技術士会東北本部

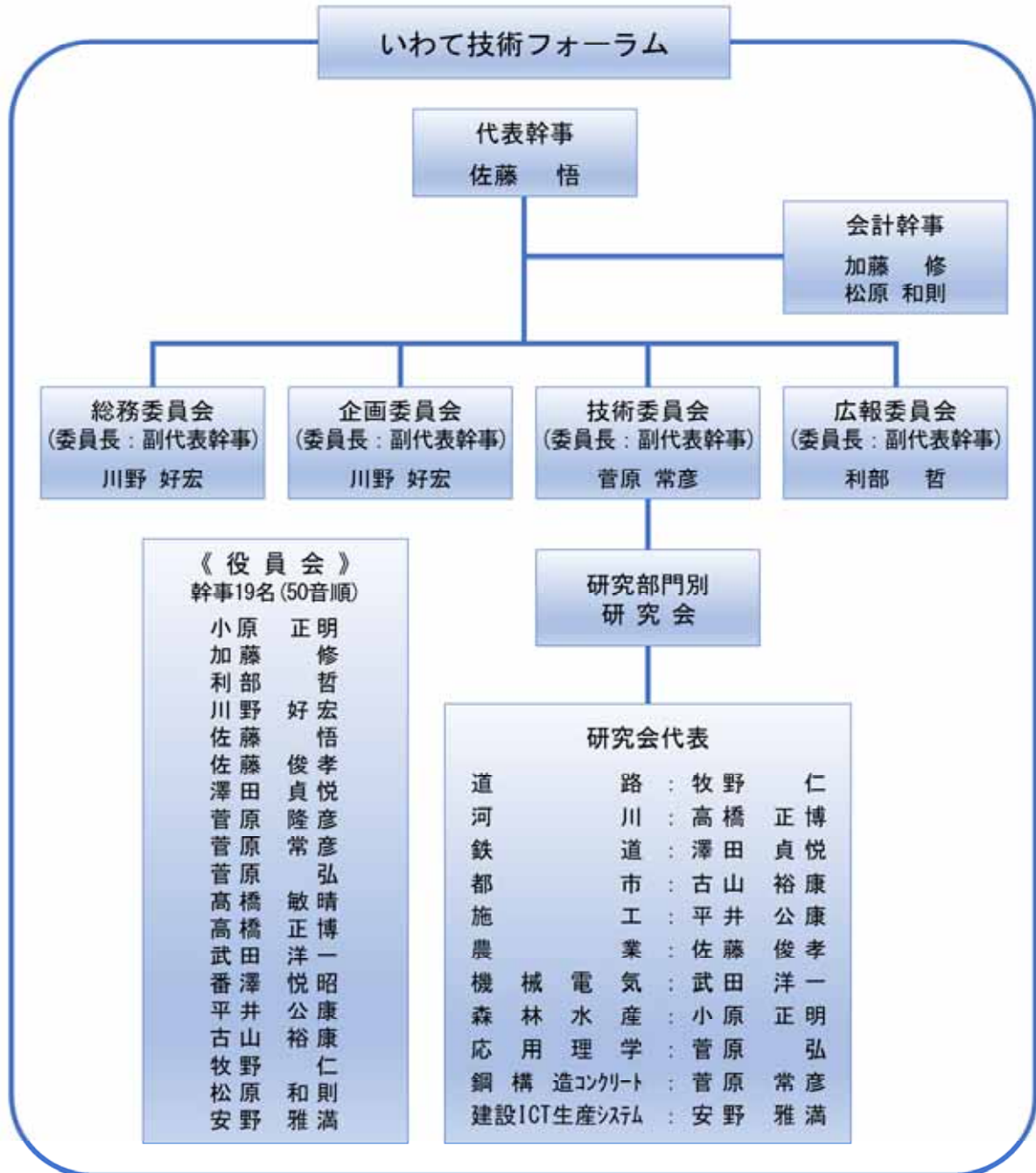
岩手県支部

組織図(2023年6月現在)



いわて技術フォーラム

組織図(2023年6月現在)



2023 年度岩手県支部事業計画書

〔2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日〕

■ 活動理念

自らの資質を向上させるよう、社会の変化と今後の動向を的確にとらえ技術の研鑽に継続して取り組む。

岩手県支部の総合力を向上させるよう、支部活動を通じて会員相互の連携を強化する。社会・地域により一層の貢献ができるよう、公益的な活動や他機関との協働を進める。技術士活動の継続的な発展が図れるよう、あらゆる場で若い技術者の育成を心がける。

■ 2023 年度の活動にあたって

東日本大震災から 12 年が経過し、社会インフラの復興は着実に整ってきました。しかし、被災した方々の生活や心の復興は道半ばであり、我々技術士としても、被災された方々に寄り添い公益を確保するという課題は続いていると感じています。この節目の年にこれまで技術士として、この災害に対して果たせたこと、果たせなかったことを振り返ることが必要であると考えます。

一方、2019 年 12 月初旬に世界で 1 例目が認められた新型コロナウイルスは、瞬く間に世界中に流行しパンデミックとなりました。我が国においても翌年 1 月に患者が発生し、国内を恐怖に陥れましたが本年 5 月に感染症法上の分類が 5 類となり、社会活動の転換点を迎えました。この間、私たちは、暮らしや業務に多くの制約を強いられましたが、様々な工夫や技術で乗り越えてきたところでもあります。コロナウイルスの脅威は続いておりますが、東日本大震災同様、一つの節目と捉え技術士の視点でコロナ禍の 3 年 6 ヶ月の社会変化を振り返り、整理することも大切と考えます。

国が進める DX については、コロナ禍を通しながら飛躍的な改革が起こったといっても過言ではありません。ビッグデータなどのデータ、AI や IoT を始めとするデジタル情報技術は暮らしの中に大きく入り込んでおり、今後も、技術分野において大きな変化をもたらすことが考えられ、これらに敏感に接し我々の技術に活用、創造することが大切と考えます。

技術士制度については、一般の方々には、まだまだ馴染みが薄い状況です。このため、様々な枠組みを超えた活動を行いながら PR に努めてまいります。また、継続教育により研鑽を積むとともに、新たな技術士の育成に励み公益につなげてまいります。

今年度は、この方針により社会・地域から頼りにされる技術士会岩手県支部を目指して参りたいと思いますので、会員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

2023 年度いわて技術フォーラム事業計画書

〔2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日〕

■ 2023 年度の活動にあたって

2023 年度は、新型コロナウイルス感染症も落ち着いており、5 月 8 日には、2 類から 5 類に引き下げることから、従前のように活発な活動を取り戻すため、さらに Web 配信の環境整備を強化し、技術士会岩手県支部との連携した取組を基本としつつ、県内技術士の一体となった活動の場として機能することを意識し、会員の皆様にご参加していただける活動を展開していきます。

具体的には、「いわて技術士交流会」については、4 回 / 年を基本に開催するほか、岩手県主催の「いわてまるごと科学・情報館 2023」及び県支部主催の「秋季講演会・新春講演会」へ技術士会岩手県支部と協働し活動していきます。

これらの活動により、会員の技術力の向上と会員相互の理解・連携の強化を図り、あわせて、技術士活動についての普及啓発に努めてまいります。

また、活動を実施する際には、会員各位のご理解とご協力をお願いすることになるかと存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。

Ⅰ. 一般事業

1. 委員会活動

主体	事業計画	概要	実施予定
役員会	役員会	岩手県支部の規則に則り年間6回を計画し、支部活動に関する協議を行なう	隔月
総務委員会	2023年度次大会	2023年度活動報告及び2024年度事業計画	2023.07.01
	技術士名簿作成	岩手県支部及びいわて技術フォーラム会員技術士の名簿作成	2023.10
企画委員会	いわてサイエンス・シム （いわてまるごと科学・情報館）	岩手県政策地域部の主催による、小中学生を対象とした、広く科学技術についての教育啓蒙活動への参加。当支部もその協賛支援団体で参画。	2023.11
	2023 秋季講演会	未定	2023.10.14
	2024 新春講演会	未定	2024.01.27
広報委員会	HP 運用	会員及び一般向けの情報掲載	随時
	ガイアパラダイムへの寄稿	岩手県支部活動報告ほかの寄稿（2回/年程度）	東北本部依頼時
	いわてまるごと科学・情報館への出展	未定	2023.11.25
技術委員会		各研究会の活動計画は次頁参照	
いわて技術フォーラム	いわて技術士会交流会	第1回 第2回 第3回 第4回	2023.05 2023.07 2023.09 2023.11
	いわてまるごと科学・情報館	県主催「いわてまるごと科学・情報館2023」 技術士会岩手県支部と協働で体験型の技術出展予定	2023.11.25

2. 研究会等活動

研究会名	事業計画	概要	実施予定
道路	現場見学会	盛岡市 橋梁老朽化対策現場見学会	2023.10
河川	現場研修会	岩泉町、久慈市 ・岩泉土木センター：小本川の流木捕捉工、 河川改修、安家川河川改修 ＝平成28年8月台風第10号復旧・復興 ・県北土木部：小屋畑川河川改修(計画)、 沢川内水対策 ＝令和元年10月台風第19号復旧・復興	2023.10 10月27日 (金)で調整
鉄道	検討中		
都市	意見交換会 (webによる)	昨年度に引き続き、会員が携わった「まちづくり」に関する意見交換を実施	2023.8 2024.2
	講演会	「盛岡広域都市計画の歩み」に係る講演会	2023.11
施工	現場研修会	岩泉町 河川災害復旧泉橋架設工事について	2023.6
農業	現地研修会	会員の技術研鑽に資する活動として、(仮)ほ場整備事業等の現地研修会を開催する。	2023.10
機械電気	検討中		
森林・水産	検討中		
応用理学	野外見学会	応用理学に関連する見学会 (技術士を目指す若手技術者～ベテラン技術者までを対象に、世代間コミュニケーションの活性化を図る場として)	2023.10月頃
鋼構造及び コンクリート	現場見学会	橋梁工事現場 補修・補強現場見学 新設橋梁現場見学	2023.9月～ 12月
建設 ICT 生産 システム	検討中		

3. 社会貢献活動

(1) 講演会などの開催

感染症対策を徹底したうえでの講演会などの開催においては、市民へ参加を呼びかけ岩手県の震災復興、地域の活性化に向けた取り組みについて情報発信を行う。

(2) いわてサイエンスシンポジウム（いわてまるごと科学・情報館）への参加

感染症対策を徹底したうえで、従来の対面方式を予定している。

- ・ 主催：岩手県（いわてサイエンスシンポジウム 2023 実行委員会）
- ・ 開催目的：将来を担う子供たちに先端科学にふれる機会を提供する県民参加型科学技術の普及活動
- ・ 日時：2023 年 11 月 25 日（土）
- ・ 場所：アイーナ
- ・ 当支部・フォーラムの参加：体験・展示コーナーへの出典を予定

4. その他

岩手県内在住の技術士が参加できる事業を展開し、併せて日本技術士会未加入の技術士に対する加入促進を図る。

東北本部 + 岩手県支部 一般会計収支予算書(案)
(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	2023年度	2022年度	増 減	東北本部			岩手		
				(2023年度)	(2022年度)	(増減)	(2023年度)	(2022年度)	(増減)
事業活動収支の部									
1 事業活動収入									
(1)入会金収入	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
会員入会金収入	0	0	0			0			0
賛助会員入会金収入	0	0	0			0			0
(2)会費収入	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
会員会費収入	0	0	0			0			0
準会員会費収入	0	0	0			0			0
賛助員会費収入	0	0	0			0			0
(3)事業収入	[0]	[1,870]	[1,870]	[0]	[180]	[180]	[0]	[0]	[0]
広告料収入	0	940	940			0			0
参加費収入	0	800	800		150	150			0
各種資料等頒布収入	0	130	130		30	30			0
外部依頼管理収入	0	0	0			0			0
CPD事業収入	0	0	0			0			0
APEC審査登録手数料収入	0	0	0			0			0
IPEA審査登録手数料収入	0	0	0			0			0
技術士全国大会収入	0	0	0			0			0
日韓技術士会議収入	0	0	0			0			0
受託事業収入	0	0	0			0			0
(4)雑収入	[130]	[3,405]	[3,275]	[0]	[2,220]	[2,220]	[130]	[130]	[0]
受取利息収入	0	12	12			0			0
有価証券運用収入	0	0	0			0			0
雑 収 入	50	123	73		10	10	50	50	0
協賛金収入	80	3,270	3,190		2,210	2,210	80	80	0
寄付金収入	0	0	0			0			0
(5)地域組織活動費収入	[7,405]	[7,338]	[67]	[7,405]	[7,338]	[67]	[330]	[330]	[0]
(6)地域組織活動補助費収入	[5,540]	[5,140]	[400]	[4,270]	[3,870]	[400]	[260]	[260]	[0]
講演会・見学会開催補助費収入	2,140	2,140	0	870	870	0	260	260	0
全国大会補助費収入	0	0	0			0			0
日韓技術士会議補助費収入	0	0	0			0			0
合同セミナー開催補助費収入	400	0	400	400		400			0
地域交流促進補助費収入	0	0	0			0			0
その他補助費収入	3,000	3,000	0	3,000	3,000	0			0
事業活動収入計 (A)	[13,075]	[17,753]	[4,678]	[11,675]	[13,608]	[1,933]	[720]	[720]	[0]

(単位:千円)

科 目	2023年度	2022年度	増 減	東北本部			岩手		
				(2023年度)	(2022年度)	(増減)	(2023年度)	(2022年度)	(増減)
2 事業活動支出									
(1) 事業費	(720)	(19,570)	(18,850)	(0)	(14,821)	(14,821)	(720)	(720)	(0)
事業促進費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
対外活動促進費	0	0	0			0			0
会員拡大促進費	0	0	0			0			0
基盤情報整備費	0	0	0			0			0
その他の事業開発費	0	0	0			0			0
報酬調査費	0	0	0			0			0
事業広報費	(210)	(4,031)	(3,821)	(0)	(2,440)	(2,440)	(210)	(210)	(0)
会誌印刷費	150	2,700	2,550		1,700	1,700	150	150	0
会誌編集関連費	0	0	0			0			0
会誌郵送費	20	180	160		50	50	20	20	0
HPコンテンツ作成費	0	0	0			0			0
インターネット運用費	40	1,060	1,020		640	640	40	40	0
その他の広報活動費	0	91	91		50	50			0
普及啓発費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
技術士全国大会開催費	0	0	0			0			0
全国大会補助費	0	0	0			0			0
全国大会広報費	0	0	0			0			0
合同セミナー開催費	0	0	0			0			0
地域産業活性化支援費	0	0	0			0			0
関係団体会場費	0	0	0			0			0
相互交流費	(0)	(300)	(300)	(0)	(300)	(300)	(0)	(0)	(0)
企業内技術士活動推進費	0	0	0			0			0
地域交流促進費	0	300	300		300	300			0
研 鑽 費	(260)	(2,930)	(2,670)	(0)	(870)	(870)	(260)	(260)	(0)
講演会・見学会開催費	260	2,930	2,670		870	870	260	260	0
技術士研修費	0	0	0			0			0
海外交流費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
国際交流費	0	0	0			0			0
海外活動支援費	0	0	0			0			0
日韓技術士会議開催費	0	0	0	0	0	0			0
修習技術者支援費	0	0	0			0			0
防災支援活動費	0	0	0			0			0
科学技術振興支援費	0	0	0			0			0
青年技術士活動支援費	0	0	0			0			0
各種資料等作成費	0	30	30		30	30			0
CPD事業費	0	0	0			0			0
APEC審査登録事務費	0	0	0			0			0
IPEA審査登録事務費	0	0	0			0			0
受託事業費	0	0	0			0			0
業務推進費	(250)	(12,279)	(12,029)	(0)	(11,181)	(11,181)	(250)	(250)	(0)
役員報酬	0	0	0			0			0
給与手当	0	0	0			0			0
法定福利費	0	0	0			0			0
賃 金	0	3,036	3,036		3,000	3,000			0
会議費	60	534	474		150	150	60	60	0
旅費交通費	50	1,430	1,380		1,100	1,100	50	50	0
通信運搬費	0	610	610		200	200			0
消耗品費	0	200	200		100	100			0
印刷製本費	0	210	210		100	100			0
各種会合費	0	625	625		200	200			0
光熱水料費	0	190	190		180	180			0
事務所賃借料	120	1,760	1,640		1,000	1,000	120	120	0
賃 借 料	0	200	200		200	200			0
会員証作成費	0	0	0			0			0
地域組織活動費	0	0	0		2,601	2,601			0
地域委員会活動費	0	2,760	2,760		2,050	2,050			0
雑費その他	20	724	704		300	300	20	20	0
(2) 管理費	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
事業活動支出計 (B)	(720)	(19,570)	(18,850)	(0)	(14,821)	(14,821)	(720)	(720)	(0)
事業活動収支差額 (A) - (B)	(12,355)	(1,817)	(14,172)	(11,675)	(1,213)	(12,888)	(0)	(0)	(0)

(単位:千円)

科 目	2023年度	2022年度	増 減	東北本部			岩手		
				(2023年度)	(2022年度)	(増減)	(2023年度)	(2022年度)	(増減)
投資活動収支の部									
1 投資活動収入									
(1) 特定資産取崩収入	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
退職給与引当預金取崩収入	0	0	0			0			0
記念事業積立預金取崩収入	0	0	0	0	0	0			0
投資活動収入計 (C)	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 投資活動支出		0							
(1) 特定資産取得支出	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
退職給与引当預金支出	0	0	0			0			0
(2) 固定資産取得支出	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
什器備品購入支出	0	0	0			0			0
長期未払金返済支出	0	0	0			0			0
投資活動支出計 (D)	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
投資活動収支差額 (C) - (D)	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]
予備費支出						0			0
(1) 予備費支出 (E)	[0]	[0]	[0]	[]	[]	[0]	[]	[]	[0]
当期収支差額 (A)+(C) - (B)+(D)+(E)	[12,355]	[1,817]	[14,172]	[11,675]	[1,213]	[12,888]	[0]	[0]	[0]
前期繰越収支差額	[18,083]	[17,025]	[1,058]	[7,748]	[7,072]	[676]	[1,005]	[969]	[36]
次期繰越収支差額	[30,438]	[15,208]	[15,230]	[19,423]	[5,859]	[13,564]	[1,005]	[969]	[36]

いわて技術フォーラム 2023年度収支予算書

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

【収入の部】

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
会 費	378,000	402,000	24,000	会員63名分
会 費 未 収 入 金	18,000	30,000	12,000	R4 3名
総 会 参 加 費	10,000	150,000	140,000	
各 種 事 業 参 加 費	5,000	150,000	145,000	技術講演会・新年交歓会等
雑 収 入	1,383	14,037	12,654	受取利息等
当 期 収 入 合 計	412,383	746,037	333,654	
前 期 繰 越 収 支 差 額	97,617	53,963	43,654	
合 計	510,000	800,000	290,000	

【支出の部】

(単位：円)

科 目	予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
総 会 費	70,000	70,000	0	会場費、資料コピー代他
役 員 会 費	50,000	50,000	0	会場費、資料コピー代他
委員会・研究会活動費	220,000	300,000	80,000	活動費
広 報 ・ 渉 外 費	60,000	230,000	170,000	広告費
事 務 費	100,000	140,000	40,000	送料、送金手数料、事務手数料他
小 計	500,000	790,000	290,000	
予 備 費	10,000	10,000	0	
合 計	510,000	800,000	290,000	

技術士倫理綱領

昭和 36 年 3 月 14 日理事会制定
平成 11 年 3 月 9 日理事会変更承認
平成 23 年 3 月 17 日理事会変更承認
2023 年 3 月 8 日理事会変更承認

【前文】

技術士は、科学技術の利用が社会や環境に重大な影響を与えることを十分に認識し、業務の履行を通して安全で持続可能な社会の実現など、公益の確保に貢献する。

技術士は、広く信頼を得てその使命を全うするため、本倫理綱領を遵守し、品位の向上と技術の研鑽に努め、多角的・国際的な視点に立ちつつ、公正・誠実を旨として自律的に行動する。

【本文】

(安全・健康・福利の優先)

1. 技術士は、公衆の安全、健康及び福利を最優先する。
 - (1) 技術士は、業務において、公衆の安全、健康及び福利を守ることを最優先に対処する。
 - (2) 技術士は、業務の履行が公衆の安全、健康や福利を損なう可能性がある場合には、適切にリスクを評価し、履行の妥当性を客観的に検証する。
 - (3) 技術士は、業務の履行により公衆の安全、健康や福利が損なわれると判断した場合には、関係者に代替案を提案し、適切な解決を図る。

(持続可能な社会の実現)

2. 技術士は、地球環境の保全等、将来世代にわたって持続可能な社会の実現に貢献する。
 - (1) 技術士は、持続可能な社会の実現に向けて解決すべき環境・経済・社会の諸課題に積極的に取り組む。
 - (2) 技術士は、業務の履行が環境・経済・社会に与える負の影響を可能な限り低減する。

(信用の保持)

3. 技術士は、品位の向上、信用の保持に努め、専門職にふさわしく行動する。
 - (1) 技術士は、技術士全体の信用や名誉を傷つけることのないよう、自覚して行動する。
 - (2) 技術士は、業務において、欺瞞的、恣意的な行為をしない。
 - (3) 技術士は、利害関係者との間で契約に基づく報酬以外の利益を授受しない。

(有能性の重視)

4. 技術士は、自分や協業者の力量が及ぶ範囲で確信の持てる業務に携わる。
 - (1) 技術士は、その名称を表示するときは、登録を受けた技術部門を明示する。
 - (2) 技術士は、いかなる業務でも、事前に必要な調査、学習、研究を行う。
 - (3) 技術士は、業務の履行に必要な場合、適切な力量を有する他の技術士や専門家の助力・協業を求める。

(真実性の確保)

5. 技術士は、報告、説明又は発表を、客観的で事実に基づいた情報を用いて行う。
- (1) 技術士は、雇用者又は依頼者に対して、業務の実施内容・結果を的確に説明する。
 - (2) 技術士は、論文、報告書、発表等で成果を報告する際に、捏造・改ざん・盗用や誇張した表現等をしない。
 - (3) 技術士は、技術的な問題の議論に際し、専門的な見識の範囲で適切に意見を表明する。

(公正かつ誠実な履行)

6. 技術士は、公正な分析と判断に基づき、託された業務を誠実に履行する。
- (1) 技術士は、履行している業務の目的、実施計画、進捗、想定される結果等について、適宜説明するとともに応分の責任をもつ。
 - (2) 技術士は、業務の履行に当たり、法令はもとより、契約事項、組織内規則を遵守する。
 - (3) 技術士は、業務の履行において予想される利益相反の事態については、回避に努めるとともに、関係者にその情報を開示、説明する。

(秘密情報の保護)

7. 技術士は、業務上知り得た秘密情報を適切に管理し、定められた範囲でのみ使用する。
- (1) 技術士は、業務上知り得た秘密情報を、漏洩や改ざん等が生じないように、適切に管理する。
 - (2) 技術士は、これらの秘密情報を法令及び契約に定められた範囲でのみ使用し、正当な理由なく開示又は転用しない。

(法令等の遵守)

8. 技術士は、業務に関わる国・地域の法令等を遵守し、文化を尊重する。
- (1) 技術士は、業務に関わる国・地域の法令や各種基準・規格、及び国際条約や議定書、国際規格等を遵守する。
 - (2) 技術士は、業務に関わる国・地域の社会慣行、生活様式、宗教等の文化を尊重する。

(相互の尊重)

9. 技術士は、業務上の関係者と相互に信頼し、相手の立場を尊重して協力する。
- (1) 技術士は、共に働く者の安全、健康及び人権を守り、多様性を尊重する。
 - (2) 技術士は、公正かつ自由な競争の維持に努める。
 - (3) 技術士は、他の技術士又は技術者の名誉を傷つけ、業務上の権利を侵害したり、業務を妨げたりしない。

(継続研鑽と人材育成)

10. 技術士は、専門分野の力量及び技術と社会が接する領域の知識を常に高めるとともに、人材育成に努める。
- (1) 技術士は、常に新しい情報に接し、専門分野に係る知識、及び資質能力を向上させる。
 - (2) 技術士は、専門分野以外の領域に対する理解を深め、専門分野の拡張、視野の拡大を図る。
 - (3) 技術士は、社会に貢献する技術者の育成に努める。